

静岡放射能汚染測定室だより

第7号

2012年2月3日発行



イラスト 清重伸之

目次

- | | | | |
|--------------------|----|-----------------------|-----|
| ■ 測定結果報告 | …1 | ■ 静岡市の災害廃棄物（瓦礫）受け入れ問題 | |
| ■ 測定についての補足 | …2 | 静岡県に質問書を出しました | …7 |
| ■ 1月26日（木） | | 静岡県からの回答 | …8 |
| 第6回『放射能を話そう♪』 | | 島田市の災害廃棄物受け入れ表明を受けて | …9 |
| 報告と感想 | …3 | ■ お知らせ | |
| ■ 『静岡の娘へ』 | …4 | 第7回『放射能を話そう♪』 | …10 |
| ■ 会員からのお便り | | 測定室総会と小出裕章さんとのお話会 | …10 |
| ・放射能の対応を共に歩める保育 | …5 | 測定器の新規増設の件など | …10 |
| ・静岡県東部の学校給食の牛乳の | | ■ 測定室活動日誌 | …11 |
| 放射能測定について | …5 | ■ プラムフィールドの窓 測定室の風 | …11 |
| ・セシウムが検出されたトマトについて | …6 | | |

会員頒布用価格 1部 500円

測定結果報告 2011年12月8日～2012年1月11日

静岡放射能汚染測定室調べ 測定値の単位はベクレル/kg、()内の数値は検出限界値(単位はベクレル/kg)

・検体重量(g) ・NDは不検出 ・「↓」は検出限界値以下

	産地	食品名	重量(g)	セシウム134	セシウム137	合計
※1	北海道	生食竹輪(製造月日 H23年11月7日)	582	ND(1↓)	ND(2↓)	ND
※2	静岡県賀茂郡	調味料(ドレッシング)(製造月日 H23年12月20日)	765	ND(2↓)	ND(2↓)	ND
	メーカー非公開	明治おいしい牛乳(賞味期限 H23年12月9日)	601	ND(2↓)	ND(2↓)	ND
	岡山県新見市	鶏肉(購入日H23年11月20日 森林どり)	652	ND(2↓)	ND(2↓)	ND
	千葉県香取市	キャベツ(H23年12月産 水洗い)	445	ND(2↓)	ND(3↓)	ND
※3	栃木県日光市	炊飯白米	663	ND(1↓)	ND(2↓)	ND
	静岡県伊豆の国市	小松菜(2度水洗い)	585	ND(1↓)	ND(2↓)	ND
	静岡県伊豆の国市	にんじん(葉を取り、2度洗い、皮付き)	582	ND(2↓)	ND(3↓)	ND
※4	静岡県東部	丹那3.6牛乳(賞味期限H23年12月23日)	616	ND(2↓)	ND(2↓)	ND
	新潟県佐渡市	白米(H23年産)	608	ND(1↓)	ND(2↓)	ND
	静岡県焼津市	白米(H23年産)	653	ND(1↓)	ND(2↓)	ND
	青森県	りんご(洗って皮付き)	528	ND(2↓)	ND(2↓)	ND
	埼玉県蓮田市	万能ねぎ(洗って根を取る)	573	ND(2↓)	ND(3↓)	ND
	岡山県岡山市中区	玄米(H23年産)	641	ND(1↓)	ND(2↓)	ND
	埼玉県蓮田市	きくいも(洗って皮付き)	590	ND(1↓)	ND(2↓)	ND
	静岡県駿河区	生しいたけ	321	ND(3↓)	ND(4↓)	ND
※5	長野県下伊那郡	ひらたけ(収穫H23年12月5日 洗わず根本を取る)	426	ND(2↓)	ND(3↓)	ND
	滋賀県甲賀市	玄米(H23年産)	600	ND(1↓)	ND(2↓)	ND
	新潟県長岡市	ラズベリージャム(収穫H23年7月)	878	ND(1↓)	ND(1↓)	ND
	静岡県磐田市	玄米(H23年産)	644	ND(1↓)	ND(2↓)	ND
	茨城県ひたちなか市	さつまいも(洗わず皮付き)	624	ND(1↓)	ND(2↓)	ND
	山口県	片口いわし(漁獲 H23年9月中旬)	219	ND(4↓)	ND(6↓)	ND
	新潟県長岡市	木いちごジャム(収穫 H23年8月)	790	ND(1↓)	ND(2↓)	ND
	新潟県長岡市	かりんシロップ(収穫H23年10～11月)	842	ND(1↓)	ND(2↓)	ND
※6	静岡県駿河湾(100%)	さくらえび(製造月 H23年12月)	154	ND(5↓)	ND(8↓)	ND
	静岡市葵区	生しいたけ(水洗い、いしづき取る)	380	ND(3↓)	ND(4↓)	ND
	宮城県登米市	玄米(H23年産)	600	ND(1↓)	ND(2↓)	ND
	茨城県筑西市	さつまいも(水洗い、皮付き)	560	ND(2↓)	ND(2↓)	ND
※7	海外・北海道	粉ミルク(明治ステップ・賞味期限 H24年7月8日)	353	ND(3↓)	ND(4↓)	ND
	北海道	ぜんざい(H23年産の小豆)	886	ND(1↓)	ND(1↓)	ND
	鹿児島県	緑茶(H23年産)	303	ND(3↓)	ND(4↓)	ND
	静岡県	緑茶(棒茶)(H23年5～6月産)	306	48	68	116
	宮城県石巻市	玄米(H23年産)	616	ND(1↓)	ND(2↓)	ND
※8		粉ミルク(森永E赤ちゃん・賞味期限 H24年9月23日)	409	ND(2↓)	ND(3↓)	ND
※9	米国・北海道	フォローアップミルク(アイト・賞味期限H24年9月28日)	395	ND(2↓)	ND(3↓)	ND
	静岡県浜松市	鶏卵(採卵日H23年12月20日頃)	712	ND(1↓)	ND(2↓)	ND
	長野県松本市	玄米(H23年産)	584	ND(1↓)	ND(2↓)	ND
※10	静岡県静岡市葵区	緑茶 H23年5月産 一茶	192	110	158	268
※11	静岡県静岡市葵区	緑茶 H23年8月産 二茶	202	41	60	101
※12	静岡県静岡市葵区	緑茶 H23年11月産 秋芽茶	183	6	8	14

	産地	食品名	重量 (g)	セシウム134	セシウム137	合計
	静岡県藤枝市	緑茶 (有機三年番茶 H23年10月産)	183	ND (5↓)	ND (7↓)	ND
	静岡県島田市	玄米 (H23年産)	603	ND (1↓)	ND (2↓)	ND
	静岡県静岡市葵区	干しいたけ (香信・H23年5月収穫)	126	ND (5↓)	ND (7↓)	ND
	静岡県静岡市葵区	干しいたけ (どんこ・H23年6月収穫)	137	ND (6↓)	ND (9↓)	ND
	北海道	小豆 (少納言・H23年10月産)	592	ND (1↓)	ND (2↓)	ND
	滋賀県	もち米 (羽二重・H23年10月産)	607	ND (1↓)	ND (2↓)	ND
	静岡県富士宮市	玄米 (H23年産)	641	ND (1↓)	ND (2↓)	ND
	北海道足寄郡	小豆 (H23年9~10月産)	641	ND (1↓)	ND (2↓)	ND
	北海道	小麦 (パン用・賞味期限 H24年5月31日)	526	ND (2↓)	ND (2↓)	ND
	福島県会津若松市	白米 (H23年産)	601	ND (2↓)	ND (2↓)	ND
	秋田県仙北郡	白米 (H23年産)	622	ND (1↓)	ND (2↓)	ND
	鹿児島県	豚肉 (茶美豚) (購入日H23年1月6日)	703	ND (1↓)	ND (2↓)	ND
★1	栃木県鹿沼市	生芋板こんにゃく (製造月日 H23年12月)	774	ND (1↓)	ND (1↓)	ND
★2	岩手県大船渡市	さんま (漁獲 H23年11月)	484	ND (2↓)	ND (2↓)	ND
★3	静岡県静岡市葵区	白菜 (水洗い)	518	ND (2↓)	ND (2↓)	ND
★4	北海道上川郡新得町	大豆 (H23年産)	495	ND (2↓)	ND (3↓)	ND
★5	静岡県牧之原市相良	鰯 (豆あじ 漁獲 H23年12月31日)	681	ND (1↓)	ND (2↓)	ND
★6	静岡県御前崎市	大根 (H23年産・葉取り、2回水洗い、皮付き)	634	ND (2↓)	ND (2↓)	ND

測定についての補足

- * **1** : 原材料…鱈 (たら)・澱粉・三温糖・あらしお・みりん・魚介エキス
- * **2** : 原材料…ニューサマーオレンジペースト (収穫 H23 年 5 月)・砂糖・食塩・白こしょう・りんご酢
- * **3** : 測定室だより 5 号で報告した白米 3 合を 4 回水洗いし、セシウム 134・137 とともに不検出の水 450ml で炊飯したもの。同一の田で収穫されたお米の測定値は、玄米で セシウム 134 が 20 Bq/kg、セシウム 137 が 27 Bq/kg、白米でセシウム 134 が 7 Bq/kg、セシウム 137 が 10 Bq/kg
- * **4** : 原乳は、静岡県東部 (御殿場市・沼津市・三島市・伊豆市・熱海市・函南町など) の酪農家の生乳。静岡県東部の広範囲の学校給食で飲用。
- * **5** : H23 年 5 月に胡桃の木に菌打ちし、その後裏山に放置し、12 月 5 日に収穫したもの。
- * **6** : さくらえびは測定容器一杯の重量が少ないため限界値が高くなっている。
- * **7** : 原乳は 国内 (北海道)、海外 (北米・フランス・オセアニア・オランダ・デンマーク)

混合比率は、メーカー非公開。測定室だより 3 号で測定報告をした「明治ステップ」と同じ賞味期限のロット違い。(工場は埼玉県春日部市)

- * **8** : 原材料を混合したのは震災前、缶に詰めた日が 3 月 22 日。(工場は東京都東大和市)
- * **9** : 生産は H23 年 3 月で、震災前商品とメーカーが回答。(工場は兵庫県丹波市)
- * **10, 11, 12** : は同じ茶園で収穫されたもの
- * **13** : 生葉を乾燥させた状態で焙煎していない

- ★**2** 頭のみ除いて、内臓も含めてミンチし測定。
- ★**5** 頭・内臓・皮を取り除き、骨付きのままミンチし測定。海岸から船が見えるくらいの沖合での定置網で獲れたもの。

測定結果の中の★印のついたものは、会員の皆さんからのいただいた希望品を測定室で購入して測定した物です。



第6回『放射能を話そう♪』1月26日(木) 味噌づくり 報告

放射性物質の排泄を促す効果もあると言われていた味噌を楽しく作ろう！・・・という企画に、各地からたくさんの方が、参加して下さいました。

参加者は 午前：7人+子ども4人+スタッフ7人=18人 (1人、5~9キロの味噌を仕込みました。)

午後：19人+子ども4人+スタッフ7人=30人

(Do みそクラブの田中美幸さんのワークショップ。味噌は発酵食品の王様！)



午前中の味噌づくりの様子

午後の味噌づくりの様子

麴くんが登場！

♪♪ おいしいお味噌になあれ ♪♪

◆第6回『放射能を話そう♪』 参加者の感想 <報告者> 静岡市 梅沢淳子さん

原発事故後まもなくして子供が生まれたこともあり、我が家でも「食」を強く意識するようになりました。子育てに追われ、あっという間に過ぎていく日常の中で、今では放射性物質を体内に入れないこと以上に、健康な体、多少の不都合な環境にも負けない体を作っていきたいと感じています。

出産前は、甘いお菓子やレトルト食品と縁の切れなかった私が、削った鰹節と昆布で出汁をとり、玄米を主食にする生活を送るようになるとは…！削りたての鰹節の美味しさ、糠漬けの懐かしい匂い…そんな日常には、日本人に生まれて良かった！を再確認するという、嬉しい副産物がありました。

今回、味噌作りの講座に参加させていただいたのも、是非、「手前味噌」を体験してみたい！自分で作った味噌で作る味噌汁って、なんだか楽しそう！子供にも自慢できる！（もちろん、放射性物質の心配もない）そんな希望がプラムさんに通じたようです。

講座は期待以上の、驚きと、笑いにあふれたものでした。

味噌って、こんな少しの材料でできてしまうんだ！（だからこそ、環境や、作る人の愛！？が大事？）というのが最初の驚き。初めて食べた麴って美味しい！茹でただけの大豆も美味しい！

手で揉むごとに味が変化していくことにも、（揉んでいると、なぜか気持ちが安らぐ？ことにも）、麴菌に実際会えた？ ことにも驚き。

日本には、すごい文化があって、この文化がある限り、どんなことにも立ち向かっていける、そんな気さえしました。

家族と一緒に楽しく味噌を作って、毎日鰹節を削って、味噌汁を飲む。もう少し子どもが大きくなって、大豆を潰せるようになったら、そうしたいな。その日の夕食は、そんな話で花が咲きました。

田中先生、今回の講座を企画して下さいました馬場さん、スタッフの皆様、本当にありがとうございました。

いやなことが続きます。お父さんも“ストレステスト”を受けているようで、憂鬱な気分になっています。この調子だと、再起動は難しいかもしれません。

お前たちも知っているように、お父さんが生まれ育ったのは原子力発電所から 8km くらいのところ。発電所を毎日見ながら生活している親戚もいます。お前たちのおばあさんは、お前たちが生れるずっと以前に亡くなったので、お前たちを連れて田舎へ里帰りするということもなかったね。



(四国・伊方原発の風景)

田舎の小さな町だけど、お父さんの小さなころはなんでもあったよ。醤油屋、造り酒屋、パン屋、豆腐屋、八百屋、魚屋、荒物屋、貸本屋、駄菓子屋、文房具屋兼本屋、床屋、歯医者、診療所、交番、加治屋さん、按摩さん、簡易郵便局、農協、銭湯、神社、お寺。八百屋ではいろんな食品を置いていたし、駄菓子屋は針や糸、ボタン、荷札、……。必要なものは歩いていける範囲で手に入ったものです。おっと、小学校と中学校を忘れていた。

今は何も無くなってしまいました。残っているのは神社とお寺と小学校くらいかな。老人だけの世帯は、僅かな年金の受け取りのためにタクシーで出かける。生鮮食料品を買うためにタクシーで出かけるんだよ。

僕は中学校の頃から映画が好きで、お小遣いをためて、峠を一つ越えた隣の市まで自転車で行か

けていました。大きな市なので、都会で封切られた洋画が意外と早く（半年から 1 年くらいで）上映されます。隣の町にも邦画専門の映画館があったけど、年に 2 回ぐらいの学校指定の映画（ほとんど怪獣映画と加山雄三だったなあ）以外は見てはいけない規則でした。もちろん洋画は禁止（きつとキス・シーンがあるから）。先生に見つかりと大変だけど、一度も見つからなかった（知らんふりをしていてくれたのかもしれないね）。

今でも記憶している映画は「007 シリーズ」、「ベンハー」それと旧約聖書を題材にした「天地創造」。

「天地創造」という映画は終わりのほうだけしか覚えていないけど……。神よりもえらいと勘違いした人間が建設したバベルの塔が、神の怒りに触れて崩壊するのだけれど、何か今考えると、原発事故と重なっているような気がします。地震という自然の怒りに原子炉は耐えられなかったのでしょうか。

神の怒りに触れた人間は、バベルの塔の崩壊と共に、お互いの言葉が通じなくなって意思の疎通がはかれなくなり、お互いに争うようになります。原発というバベルの塔が崩壊して、皆おろおろしているように感じます。事故が起って後、一番悲しく思ったのは、放射能に汚染した地域から避難する人たちを、残る人たちが非難するという記事を読んだときでした。そして最近、避難した人が、残っている人を非難している言葉（こんなに言ってあげてるのに……）を聞いたときです。

お父さんはお前たちをお願いしたいことがあります。避難する人を支援してあげてほしいこと、そして、放射能が危険だと知りながら様々な事情で避難できない人の気持ちを、少しでも自分のものとして考えてほしいこと。少しでもいいんです。

頑張っている娘へ

京都の父より

■ 会員さんからのおたより

測定室には、会員さんから様々な情報や地域での動きをお知らせいただいています。ご本人の了解を得て、ご紹介をします。

① 放射能の対応を共に歩む保育園

静岡市葵区 花村 肖さん

私は、静岡市在住、5歳の娘を持つ母親です。娘は1歳半より静岡市内の保育園に通っており、現在、年中組でお世話になっています。大切な娘を預け、仕事に集中するためにどうしても欠かせないのが『安心』です。しかし、福島原発問題により、その安心は一気に不安に変わりました。

原発事故当時の私は、放射性物質の「ほ」の字も知らず、まして原子力は安全なものだと思っていない愚か者でした。事実を知ったことへの恐怖と悲しみ、そして自責の念。それから、私と園のそれぞれの成長が始まりました。

4月、新学期最初の保護者総会。ほんの少しのお時間を頂き、福島で何が起きているのかをお話させて頂きました。当時、原発のことも放射能のことも誰も知らず、メルトダウンってなあに？の世界でした。情報が淘汰され、私たちに必要な知識は普通に生活をしているだけでは手に入りませんでした。園では、普通に牛乳が出され、雨に濡れる。給食の仕入れも然り。100人近い親御さんの、誰一人気にしている方を見受けませんでした。

このような状況下で、全く知識も情報もなかった中、それでも一生懸命私の訴えを聞いて下さった園長先生。園長先生の子どもに対する本物の気持ちが、園に変化をもたらせました。園長会などでのいろいろなしがらみを持ちながらも、園で出来る精一杯に伝えて下さい

ました。何度も沢山の資料を持参し話を繰り返す私に、一生懸命真剣に聞いて下さる保育園。ボーナスには職員全員が、甘藷珠恵子さんの「まだ、まにあうのなら」を購入し、園長先生は園長さんのお仲間のために、数十冊を購入して下さいました。今では、給食だよりに放射能の影響を受けやすい食べ物や、放射能物質を軽減させる下処理などの案内などを載せて下さっています。

まだまだ、牛乳、きのこ等の心配は尽きません。これからは新海苔やかつお節も気がかりですが、このようにたった一人の母親の意見や訴えを、真摯に受け止め聞いて下さる園に通わせている幸せを、心より感じています。想いはきっと通じるものだと信じ、何度でも話し合い、分かり合い、共に手を取りあって歩んでいきたいと思えます。

2012年1月16日



地湧社
甘藷珠恵子著
2006年

② 静岡県東部の学校給食の牛乳の放射能測定について

静岡県三島市 H.Mさん

(2011年7月21日記)

丹那乳業協同組合に、放射能汚染の検査について問い合わせたところ、組合からの返信が来ましたので、お送りします。静岡県東部で学校給食に使われている牛乳メーカーのことなので、念のため添付いたしました。

……丹那乳業協同組合の返事……

お問合せいただいた件について回答いたします。弊社で使用している原料乳(生乳)はすべて静岡県内産を使用しております。現在丹那地域で飼育している乳牛に与えているワラ類については、丹那地域で昨年収穫し室内で保管された物であり、他地区より購入した物は与えておりません。その他、乾牧草はアメリカやオーストラリアより輸入し、室内で保

管されていた物を与えております。先月実施いたしました弊社取引先による丹那地域の牧草の放射性物質検査では、セシウム 137、136、134、ヨウ素 131 はいずれも不検出という結果でした。



よって弊社ではこれまでのところ、原料乳は安全であると判断しております。

また、先月弊社取引先で実施致しました牛乳製品中の放射性物質検査の結果セシウム 137、134、ヨウ素 131 は、いずれも不検出という結果でした。

以上の調査結果から全ての製品を安全に出荷出来ていると考えております。

今後とも引き続き弊社製品のご愛顧を賜ります様お願い申し上げます。

品質管理課 ●●●●

(注:個人名は編集で割愛しました)

③ セシウムが検出されたトマトについて・・・

埼玉県 匿名希望トマトさん

以前測定していただいたトマトも7ベクレルの検出がありました。これは正直ショックでしたが、現実。どう対応すべきか考え、今年の栽培を行っています。

観察と見解を述べさせて頂くと、検出のトマトはハウス栽培でした。検出はないだろうと思っていましたが、測定直前にゲリラ豪雨によりハウス内への浸水があり、収穫した時は20センチ位水に浸かった状態でした。多少でも室外に降り積もった放射性物質がハウス内に入り込んだと見ています。また、調べたところによると、植物が生育する時に、土壌が酸性に傾くと、カリウムをうまく吸収できずセシウムを吸収してしまうようです。

栽培が終盤になっていたのも、土も樹も疲れていて上記の悪条件が重なったのかなと思いました。

ですが、ハウス内で検出される位の汚染があったとなると、路地栽培の野菜はいったい！？と思えてしまいます。こちらの地域は少ないながらも汚染はありますので、昨年の内に放射性物質を吸着してくれるゼオライトをハウス内、路地の畑にも散布しました。

このゼオライトの効果は、東京農大の土壌学の後藤教授からお聞きし、農業新聞でも公表していましたので、信頼はおけるデータであると思います。

ただし、これで絶対ということはないので、今後も作物の種類や圃場の場所の違いでの測定を注視していきたいと思っています。

ちなみに、前回測定して頂いた白菜は別の場所ですがハウス内で栽培したものです。検出されませんでした。品種による放射性物質の移行係数を目安に見ると、このハウス内での栽培は安心できると思えました。

心から感謝しています。

話しは変わりますが、洗う前と洗った後の測定の違いについてです。

原発爆発直後はかなりのものが汚染され検出となりましたが、今収穫しているものは、検出されるものと検出しないものははっきりしてきたように思います。それは、今現在大気中に舞っている放射性物質が少なくなっているからだと思います。

爆発直後の降り注いだ放射性物質で、その時に畑にあったものや直後に栽培されたものは、作物が直接、放射能を浴びたことと、降った直後の物質が吸いやすい状態にあったことで、ほとんどの作物が高レベルで検出されたのだと思います。

今の作物で検出が少ないのは、その後、畑が耕運機で耕され、表面の汚染が地中20センチくらいまでの土と混ぜられ、かなり薄められたこと(←ここがポイントだと思います)と、日本の土の質が粘土質なため、土の細かい微孔に吸着されてしまっているのも、作物への移行が少ないのだと思います。(汚染マップで見ても、汚染が高い地域でもお米で検出されていないのはこのためだと思います。)今検出されているのは、汚染がかなりひどい所と、移行係数が高い作物だと思います。そのため、今の作物では洗浄前と後とでは差がないように思います。

もちろん産地と、栽培場所の違いはあると思います。また、これは個人的考えですので、実際にやってみないとわからないことですので、機会があったら是非やっていただきたい測定だと思っています。これからも皆様の活躍を期待しています。(2011年1月17日)

■ 静岡市の災害廃棄物（瓦礫）受け入れ問題

静岡県に質問書を提出しました。

静岡県は、細野原発事故対策の大臣の地元で、大臣自身が災害廃棄物の受け入れを要請するため、県各市を回った事もある。昨年末から瓦礫の受け入れが大きな政治課題になっています。

受け入れを表明した島田市だけでなく、多くの市民が活発に動き始めていますが、測定室でも1月6日（金）に静岡県への質問書を提出しました。

国や県は、搬出する廃棄物は放射能に汚染されていない木材チップなどだと説明していますが、放射能汚染の問題だけでなく、廃棄物は焼却処理をすれば

様々な有害物質が生成、排出される事は知られています。そして低レベルの放射能汚染であっても焼却すれば、濃縮した残り灰が出ます。バグフィルターによって放射性物質は除去できるという国の説明も信憑性が無いという新聞記事がありましたので、別紙、折込みました。

この質問書に1月30日（月）に担当官と面談をし、静岡県から、丁寧な回答を受け取りました。

質問書全文及び回答書は HP に掲載していますが、要約を以下に掲載します。

静岡県からの回答

<回答者> 静岡県くらし・環境部環境局 廃棄物リサイクル課長

質問1 静岡県は、すでに瓦礫受け入れを決めたのでしょうか？

（回答）本県は、岩手県の大槌町と山田町の災害廃棄物（柱材、角材）の受け入れを支援する方針としておりますが、現在、県内で正式に受け入れを決めた市町はありません。

なお、島田市では、施設周辺の住民への説明会や広報等により、受け入れについて市民の理解を求めています。まずは試験的に受入れ焼却を行い、具体的な数値をもって住民に説明し、理解を得ていきたいとしています。

質問2 静岡県から各市町に、受け入れの要請、指示などをされていますか？

（回答）昨年12月10日に開催した災害廃棄物の広域処理についての説明会において、県内の市長、町長に対し、広域処理の必要性や本県に受け入れる場合のスキーム案等を説明し、可能な範囲での受け入れに協力していただくようお願いしております。

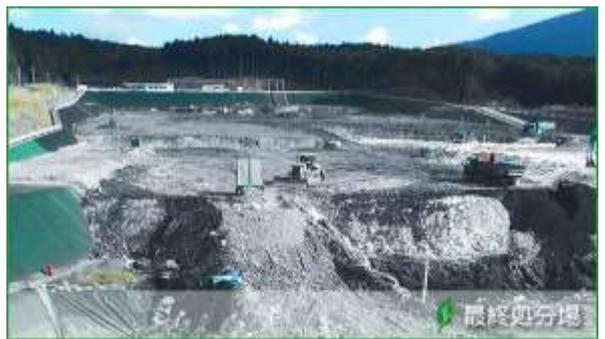
質問3 予定されている瓦礫の内容物は、どのようなものなのでしょうか？

（回答）岩手県の大槌町と山田町の災害廃棄物

で、その中の柱材・角材等の木材を破砕し、チップ状にしたものです。

質問4 県内全体で、どれだけの量（総量）を受け入れるか、決まっていますか？

（回答）市町での一般廃棄物の処理余力の1%程度となる600トンを目標として提案しておりますが、決定したものではありません。



（静岡県富士市の最終処分場風景）

質問5 搬出元の市町は、瓦礫の放射能測定を行うよう国から指示されていますか？

また、静岡県として測定を要請されていますか？

（回答）国が作成した広域処理の推進に係るガイドラインにより、広域処理における災害廃棄物の放射能濃度や空間線量率の測定方法などが

示されております。

岩手県の大槌町と山田町は、岩手県に災害廃棄物の処理を委託しておりますので、搬出時の災害廃棄物の放射能濃度及び空間線量率の確認は岩手県が行います。

また、本県に受け入れる場合には、ガイドラインには規定されておりませんが、県独自で木材チップをコンテナに積み込む際に遮蔽線量率や空間線量率の測定を行い、安全性をしっかりと確認することとしております。

質問6 静岡県では、瓦礫の放射能汚染地の受け入れ基準はありますか？

(回答) ガイドラインでは、災害廃棄物中の放射性セシウム濃度が 240~480Bq/kg 以下であれば、焼却による濃縮率を厳しく評価した場合でも、焼却灰中の濃度は 8,000Bq/kg を超えることはなく、これを埋立処分した場合、埋立処分場の周辺住民の受ける線量も年間 0.01 ミリシーベルト/年以下となるため、人の健康に対するリスクは無視できるとしております。

本県では、さらに厳しい災害廃棄物中の放射性セシウム濃度 100Bq/kg 以下を受け入れの基準とする方針です。

質問7 昨年末、県知事より県内の最終処分場候補地が示されたと新聞報道で知りました。

しかし、静岡市に於いても、福島原発事故以降、市内のごみ焼却処理により、残り灰に濃縮した放射能汚染値が測定されています。瓦礫 1 件あたりは低レベルの汚染であっても、焼却によって濃縮する事を考えると、放射性物質を含んだ物質を汚染地域から移動し、汚染の少ない自治体で焼却処分をするということは、静岡県の環境汚染問題という観点からどのようにお考えですか？

(回答) 前述のとおり、県が受け入れを考えている災害廃棄物は、100Bq/kg 以下で、国が安全の目安としている 240~480Bq/kg を大きく下回るものです。

また、昨年 12 月に本県と岩手県が共同して大槌町、山田町の災害廃棄物（木材チップ）の放射性セシウム濃度を測定したところ、13Bq/kg 程度と極めて低く、受け入れ処理を行っても人の健康はもちろん、環境への影響も問題ないレベルと考えております。

なお、食品についても、新たに設定された食品中の放射性物質に係る企画基準（H24.4 施行）において、野菜や加工食品などの一般食品の放射性セシウムの基準値は、100Bq/kg と定められています。

質問8 被災地での瓦礫処理について、自然の循環を早める工夫を施し、還元型の有機物処理とその過程で残る自然に還らない無機物質の除去を行う方法を提案している市民団体もあると聞きます。そうした市民団体や研究者との協働による処理を検討しているかどうか、静岡県に各自治体から情報は来ていますか？

(回答) ご質問にある処理方法については、残念ながら承知しておりません。また、自治体からの情報提供もありません。

なお、災害廃棄物の処理は、廃棄物及び清掃に関する法律の定める基準に則って行われることとなります。

質問9 予期せぬ震災の復興であっても、自然に負荷を掛けない方法で瓦礫も処理されることを望んでいます。万一、静岡県が震災に遭遇した場合に備えて、県内各地に自然循環型の有機物処理施設を準備する事は検討されていますか？

(回答) 震災に備えた自然循環型の有機物処理施設の準備については、現在検討しておりませんが、発生した災害廃棄物を可能な限り再生利用することが必要であると考えます。



島田市は1月27日（金）、災害廃棄物の安全性を試験するための、試験焼却を行うと発表しました。

島田市では、市長が受け入れを表明して以来、市民の中で反対署名や働きかけを行っているとの事ですが、当測定室アドバイザーの河野益近さんは、過日、『チェルノブイリハート』上映会後のトークで、「もし、静岡県で瓦礫を焼却するような事があれば、飛散調査をする・・・」と言って下さっていました。

島田市長は「事前に市民と一緒に試験焼却を公開して行い、安全だと示して納得して進める」と言っていますので、河野さんに相談をして、試験焼却をすると決まれば、事前に松葉による環境調査を行い、その後も継続して島田市の松葉の汚染測定をしていく事を了承していただきました。

そこで測定室として、1月23日（月）、島田市の災害廃棄物受け入れ担当課に連絡を取り、試験焼却の日程を確認しましたところ、「まだ、試験焼却をするかも決まっていない」??という事でしたので、松葉による放射能汚染環境調査の計画について概要を伝え、「職員の方と一緒に調査をする松の木を選出していただき、今後、試験焼却があった後も、継続して松葉の採取に立ち会っていただきたい」旨、お話をしていました。

しかし、今回、試験焼却を実施するという発表があったため、急ぎよ、試験焼却による安全性のデータをどの様に取り、どの様な評価を行うのか、測定室として、1月31日（火）島田市に『質問書』を届けてきました。**（質問書全文は測定室HPに掲載いたします）**

この質問書の作成に当たっては、放射性物質の定量が専門である河野さんをお願いして、質問すべき項目を挙げていただき、8項目の質問を届けました。

[↓ 写真は島田市田代にある焼却場]



特に、焼却炉からフィルターまでの間に、灰と水分の中にどの様にセシウムが分配されるかなど、焼却灰と水蒸気に乗って大気中に移行する量についても、質問しています。

焼却炉は、炉内で生成された有害化学物質の環境への排出を防止するための設計や機能については、データも示され、各地域で導入されていますが、放射性物質については、科学的試験は行われていないと言われていいますので、どの様なデータが示されるか、回答を待ちたいと思います。

当測定室のアドバイザーも顧問も、試験焼却によって『無害』を証明する方法について「そのような証明は簡単には出来ない」という意見ですので、専門家の助言を頂きながら、『市民が測定値を持つ』意味をしっかりと実現していきたいと思っています。

試験焼却の日程が分かり次第、島田市在住の皆さんのお力を借りて、島田市田代にある焼却場付近の松の木がある場所を教えていただき、試料の採取を行いたいと思いますので、よろしく願います。

どうぞ、皆さんのご意見もお聞かせください。



■ 測定室よりお知らせ

■「第7回、放射能を話そう♪！」～スカイプ参加も歓迎します～

日時 : 2月9日(木) 13:30～15:00
場所 : 静岡放射能汚染測定室(プラムフィールド)にて
会費 : 会員 300円
一般 500円(測定室だより最新号付)
内容 : 測定室からは『瓦礫問題』の経過報告など
お茶を飲みながらフリートーク



■測定室総会と小出裕章さんとのお話会 (予告)

測定室は6月11日で測定開始、1周年を迎えます。
会員総会と当測定室アドバイザーのお1人である
小出裕章さんに参加いただき、お話会を企画してい
ます。期日は、6月9日(土)午後 です。
会場等は、公的な会館の申し込みが出来しだい詳
細をお知らせします。

小出さんの講演会という形ではなく、皆さんから
の質問や疑問をお寄せいただき、それに答えていた
きながら、これからの日本でどう暮らし、どの様な
社会を創っていけるか参加者の皆さんと意見交換が
出来る企画を考えたいと思っています。

6月9日(土) 午後の時間、静岡で一緒くださるよう予定していただければ嬉しいです。

■測定器の新規増設を検討しています。

測定室の運営はスタッフ(アドバイザー、顧問も
含めて)全員がボランティアで活動を続けています
ので、皆さんからいただいている会費や測定料によ
り、現在、少し余剰金が出ています。さらに1月には
測定室の活動に賛同して下さる方より高額の寄付
を頂きましたので、測定器をもう1台、設置するこ
とを検討しています。今すぐに一体型の測定器(国
産品で価格約300万円)を購入するまでには至って

いませんが、測定器が2台になれば、食べ物の測定
だけではなく、子どもたちが育つ環境(土)や生産者
の田畑の土の測定も受けられるようになりますの
で、より安心した暮らしを実現できるのではないかと
考えています。

現在、測定機種を選定のため、比較・検討を行っ
ています。皆さんのお知恵も貸して下さい。機種に
ついては、決定前に報告をさせていただきます。

■返却不要の測定品を福島の子どものたちの食事に使わせていただきます

測定依頼を頂き、返却不要と記していただい
ている食べ物が、測定後、手元に残ります。
生鮮品は、私たちの有機物堆肥化(生ごみを畑に
還す)活動日に畑に還していますが、玄米や消費
期限が長い食べ物で、測定結果が『不検出』だ
ったものは、3月21日～31日に静岡市に福島の子
どもたちを迎える計画がありますので、その時の食
事に使わせていただきたいと思います。

また、今後も測定のために送っていただき、返却
不要で『不検出』だったものについては、福島県
の保育園、幼稚園に食材を届ける活動をしている
人たちにお願いして、寄付をさせていただきたい
と思います。ご協力ください。



(宛名)

測定室活動日誌

2011年12月29日(木)～31日(土)

測定室試買測定

12月31日(土)～1月1日(日)

測定器メンテナンス

2012年

1月6日(金) 静岡県へ質問書を届ける

1月19日(木) 測定室スタッフミーティング

1月21日(土)～『測定室だより』第7号

編集作業

1月24日(火) “放射能と子どもの未来を

考える会～袋井～” 学習会

講師で馬場参加

1月25日(水) 朝日新聞取材

1月26日(木) “放射能を離そう♪!”

～味噌づくりワークショップ～

1月30日(月) 静岡県の回答受け取りに県庁訪問

1月31日(火) 島田市に質問書を届ける

2月3日(金) 『測定室だより』第7号発行、発送

編集・発行：静岡放射能汚染測定室 事務局
〒420-0882 静岡市葵区安東 1-2-3 プラムフィールド内
TEL/FAX 054-209-2021 (月～金 10:00～16:00)
測定室Ph 070-5034-0920 (月～金 9:00～17:00)
e-Mail ssokuteisitu@yahoo.co.jp
URL <http://sokuteisitu.plumfield9905.jp>

プラムフィールドの窓・測定室の風

世界史に記される原発震災(福島原発事故)を経験した二〇一一年から年が明けました。

無念さといたまれなさを、食べ物の放射能汚染を測定する事を通して向き合おうと活動できたのは、全国の会員の皆さんと一緒に歩んで下さったお陰です。まだまだ、放射能の動きや食べ物がどの様になっていくのか、はつきりとした事は分かっていませんが、事実を観察し、定量を重ねていくことによって、どの様に暮らしたら良いか、本年も静かに観察を続けたいと思います。よろしくお願ひします。

■スタッフ・宮本万倫子さんを紹介します。

測定室の会計を担当している宮本さんは、静岡市郊外の自然豊かな街に暮らし、田畑の草取りも大好き!というナチュラルリストです。そして何より、『魔法の言葉』の使い手で、昨年は「私には良いことしか起こらない」とにっこり。そして、その通りに、どんな出来事にも“私に出来る事”を探して行える人ですから、言葉通り“良いこと”に変える事が出来るのです!(素敵!)そして、今年の『万倫子の言葉』は“ちようど良い”だそうです。出来事は良いタイミングで起こるといふ確信は、プラムフィールドの笑顔につながっていると思います。万倫子さんの魔法の言葉を皆さんも楽しんで下さい! 馬場利子

■スタッフのつぶやき

放射性物質(敬称略)、あなたと直接付き合い始めて、十一月が経ちました。あなたを測定する手順にもたいぶ慣れましたよ。でも、あなたを測定することに慣れてはいけないと思っています。「あなたが安定したいのだ。」と知った時、私は「そうだよねえ」と共感しました。でも、あなたと一緒に暮らすことはできません。地球の中で静かにしていたあなたを、利用したことが愚かでした。ごめんなさい。「どうして」あなたを測定することになったのか。その元の本物のものところを私は忘れません。

会員の皆さんへ……いま一度、「まだ まにあうのなら」のご一読をお薦めします。(甘蔗珠恵子著 地湧社) 宮本万倫子